

Tango Origin 2014



ロベルト&ラウラ Roberto y Laura

ロベルトは、O・ブグリエセ楽団、L・フェデリコ楽団などのメイン・ダンサーとして、また自ら主宰するダンスカンパニーにでの公演と、これまで数多く来日、日本でも大勢のファンを持つトップダンサーの一人。映画「タンゴ・バー」、世界的大ヒットのタンゴ・スペクタクル「タンゴ・アルゼンチーノ」「タンゴ・パッション」などのメイン・ダンサーとして活躍し世界中を廻った後、イタリアのミラノとブエノスアイレスに拠点を構えてアクティブな活躍を続けている。

洗練された高度なダンステクニック、エレガントな舞いで観客を魅了。世界的な、ダンサー・振り付け家・ダンス教師として揺るぎない地位を築きあげている。今回は、タンゴダンス世界選手権の審査員を務めるなど、ロベルトに負けない世界的なキャリアを持つ美貌のダンサー、ラウラ・レガスキュを相方に伴ってファン待望7年ぶりの来日公演となる。

クリスティアン&ナオ Cristian y Nao

クリスティアンは、2005年にアルゼンチンでのタンゴダンス世界選手権にて、ステージ部門第四位を獲得。ナオは、2005年ジャパン・オープンタンゴダンス選手権にてサロン部門準優勝2008年よりペアを組み本格的に活動を開始、国内外の数々のショーに出演し人気を博している。2008年、Japan Openタンゴダンス選手権サロン部門・ステージ部門共に準優勝。2009年、アルゼンチンタンゴダンス世界選手権アジア大会サロン部門優勝／同世界選手権ステージ部門3位受賞。



ディエゴ&ベロニカ Diego y Veronica

カタマルカ出身の人気若手ダンスカップル。ディエゴはfolklore舞踊のダンサーとして活躍後、ベロニカとペアを組み2007年、ラ・リオハ州タンゴダンス競技会サロン部門で優勝。その後も、2008年サンタフェ州、2009年フワイ州、2012年バラデロー市、フワイ州のタンゴダンス競技会でそれぞれ優勝。タンゴダンス世界選手権には2009年と2012年に出場し、ステージ部門でそれぞれ準決勝まで進んだ。

セバスティアン&アグスティナ Sebastian y Agustina

アルゼンチン最南端フエゴ島出身のダンスカップルとして、今話題を呼んでいる新進若手ペア。2007年～09年、地元のタンゴダンス競技会で最優秀カップルに連続選出され、翌年から首都に活動の拠点を移す。2011～12年、タンゴダンス世界選手権に出場、サロン及びステージダンスの両部門で連続ファイナリストとなる。

同年9月には佐世保ハウステンボスのタンゴダンスショーに招かれ初来日。現在はダンスの指導はじめ、様々なタンゴショーに出演している注目のダンスカップル。



パウラ・カスティニョーラ Paula Castignola (シンガー)

イタリア移民の家庭で育ち幼い頃より歌が大好きだったパウラは、次第にイタリア歌曲のシンガーとしてその才能を開花させていった。2004年、20歳の時に音楽グループ“アズーロ (Azzurro)”を結成、メイン・ボーカリストとして、ブエノスアイレスのイタリア系コミュニティ主催の音楽祭に数多く出演し本格的な活動を開始。翌年2005年、イタリアを代表する世界的歌謡祭“サンレモ歌謡フェスティバル”に出場、外国人として唯一のファイナリストに選出される。

2006年、ブエノスアイレス・イタリア文化協会後援の音楽劇“オー・マンマ・ミーア”に出演し好評を得て、2010年にブエノスアイレスのコリセオ劇場で再演。2000年代末からはタンゴに惹かれ、その優れた歌唱はやがてバンドネオン奏者カルロス・コラーレスの目にとまり、タンゴ歌手として本格的にデビュー。2010年、生まれ故郷の“キルメス・タンゴ・フェスティバル2010”に出



演、詩人オラシオ・フェレルと共演し喝采を浴びた。2011年、著名女性シンガー、マリア・エレナ・ウオルシュに捧げたミュージカルを、キルメスのドーニャ・ロサ芸術ホームで発表し絶賛を浴び、2012年にはブエノスアイレスで再演。

2013年末には、待望のファースト・アルバムをリリース予定。また同年、20世紀初頭にアルゼンチンに渡ったイタリア移民の事を物語った音楽劇に出演し、成功を収めている。ステージ・キャリア豊富な美貌の実力派シンガーとして、タンゴ界注目の新進女性シンガー。今回が初来日。

アンドレス・リネツキー タンゴ楽団 Orquesta de Tango Andres Linetzký

アンドレス・リネツキー Andres Linetzký

(ピアノ、音楽監督、編曲)

1974年、アベジャネーダ生まれ。アベジャネーダ音楽学院にてクラシック、タンゴ、ジャズ、作曲法を学ぶ。巨匠オラシオ・サルガン、カルロス・ガルシアらに師事。カルロス・ガルシア＝ラウル・ガレーロ指揮の名門、市立ブエノスアイレス・タンゴオーケストラのピアニストとして抜擢され注目を集める。正統的なタンゴ奏法、解釈、優れたセンスと高い技術が、高く評価されているタンゴ界の未来を担うホープの一人。1999年に“バレ・タンゴ (Vale Tango)”を結成してからは、ヨーロッパでの活動にも力を入れており、現在まですでに9枚のアルバムを発表、確固たる地位と人気を築いている。今回で3度目の来日となる大の親道家。



アレハンドロ・シャイクス
Alejandro Schaikis
(バイオリン)

ニコラス・カプシツキ
Nicolas Capsitzki
(バンドネオン)

会田桃子
Momoko Aida
(バイオリン)

東谷健司
Kenji Azumaya
(コントラバス)

鈴木崇明
Takatoki Suzuki
(バンドネオン)